

JIM-NET 便り

2023 9月号

発行：2023年9月29日

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4丁目4番11号 内藤ビル2C
電話 03-6228-0746 メール info-jim@jim-net.net



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

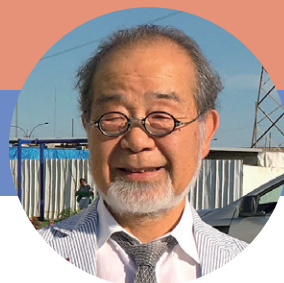


目次

これからも応援を続けます（鎌田實）	P2
よろしくお願いします（池住義憲）	P3
サヘル・ローズさんのイラク訪問報告会（大嶋 愛）	P4
バグダード訪問記（長谷部貴俊）	P6
Coffee for Peace !	P8

これからも応援を続けます

鎌田 實



6月14日に開催いたしました第12回総会において役員改選が行われ、JIM-NET 代表理事を退任いたしました。長くみなさまの厚い厚いご支援をいただけたことで、19年間走り続けることができました。心から感謝しています。2003年、イラク戦争が始まる時、どんな理由があったとしても『戦争反対』と強く思っていました。しかし、3月20日に戦争が開始されてしまいました。『戦争反対』を言うだけでなく、戦争が起きてしまった以上、戦争に巻き込まれて困難の中にいる子どもたちには、せめて手を差し伸べたいと思ったのです。そこで JIM-NET を立ち上げました。戦争がなければ、それぞれの国の医療で助かる病気の子どもたちが、きちんとした治療が受けられないのは忍びないと思ったのです。

当時、僕はテレビのコメンテーターをしていました。その番組では、特別に僕がイラクに支援に入る時、テレビのクルーを入れてくれました。テレビやラジオ、新聞、雑誌などが、イラクの人たちの生活の状況、医療の貧困、病気を持った子どもたちの不安などを取り上げてくれるようになりました。たくさんの応援をいただくことができました。

チョコ募金や Coffee for Peace! では、それぞれの企業が大きな支援をしてくださいました。毎年、たくさんのチョコ募金にご寄付をくださり、そんなにチョコは食べられないから「イラクの病気の子どもや福島の障害のある子どもたちに配ってほしい」と心が温かくなるご寄付をいただきました。その方は、福島の障害のある子どもたちから『足ながおじさん』と呼ばれるようになりました。また、以前から遺贈を呼び掛けてきましたが、亡くなる時の遺言で、JIM-NET に約5,000万円のご寄付をいただきました。イラクの子どもたちに役立ててほしいとのことです。ありがたいことです。

イラクの難民キャンプで、運

動不足の難民の人たちとスクワットをしたり、イスラム国に連れ去られた若い女の子たちの心のケアをしたりしました。外務省『NGO 連携無償資金協力事業』の助成で JIM-NET ハウスという3階建ての建物を作り、小児がんの子どもたちが、抗がん剤治療をしながら、勉強やアート活動ができるようになりました。

トルコ・シリア大地震の被災者支援では、シリア国内の支援が届かないところに、JIM-NET の現地スタッフであるリームが、危険を冒して現地に入り、有効な支援をすることができました。アルビルにある JIM-NET の事務所には、日本人のスタッフが1~2人、現地スタッフはバグダードとバスラも入れると12人。みなさんのご支援が有効に使えるように頑張っています。

池住義憲副代表が、3年ほど前に JIM-NET 会議で『JUSTPEACE』という言葉をご提案してくれました。JUST は、Justice のことです。公正とか正義を意味します。それ以来、JIM-NET は多くのイベントで『JUSTPEACE!』という言葉を使ってきました。私たちが目指すものは、誰かを犠牲にした平和ではなく、『公正なる平和』であるというメッセージが込められてきました。元立教大学大学院特任教授で、平和・人権・NGO 活動などに詳しい池住義憲新代表にバトンが渡されました。

前監事の村山文彦さんと僕は、今後は名誉顧問の名前をいただきました。今まで通り JIM-NET の宣伝部長的な広報面での支援をし、JIM-NET の活動を広げていきたいと思っております。これからも今まで通りのご支援をみなさまにもお願いしたいと思います。19年間 JIM-NET 代表への応援をしていただいたことに、心から感謝します。



イラクの難民キャンプにて



難民の人たちとスクワット!

よろしくお願いします



池住義憲

新代表に就任しました池住義憲です。

鎌田實さん、19年間にわたるJIM-NET代表としてのお働き、お疲れさまでした。ありがとうございました。鎌田さんなしでは考えられないJIM-NET。今後ともご支援・ご指導、よろしくお願いします。

鎌田さんらが中心となってJIM-NETを立ち上げたのは、イラク戦争開始翌年の2004年。米軍が使用した劣化ウラン弾による放射能の影響などで、多くの子どもたちの命が失われるという危機的状況の時でした。そのころ私は、全国の仲間呼びかけて、「自衛隊イラク派兵差止訴訟」を名古屋地裁に提訴（2004年2月）していました。

2011年3月の東日本大震災の翌年2月、JIM-NETはNPO法人となります。以後JIM-NETは、「イラク小児がん支援」「イラク・シリア難民支援」「福島支援」の三つを活動の柱に据えて、活動を続けてきました。チョコ募金やCoffee for Peace!キャンペーンも含め、多くの皆さんに支えられました。これらすべて、鎌田さんを中心とする皆さんの協力と支援のおかげです。

JIM-NETは、とくに小児がん・白血病で十分な治療を受けられないイラクの子どもたち、国際機関の支援が十分受けられないイラク国内の避難民、いろいろな事情で故郷を離れて暮らさざるを得ないシリア避難民キャンプの人たちなどの「いのち」と「暮らし」「健康」に焦点を当てて活動を続けています。その根底にある考え方が、鎌

田さんの挨拶にある「ジャストピース」（公正な平和）です。

他者・他国の人たちの困難を見過ごして、またその犠牲によって成り立っている平和や安定は、ジャストピースと言いません。JIM-NETは、何処の地域・国であっても、すべての人が等しく幸せに暮らすことができる権利、平和の内に生きることができる権利の実現を願っています。

役員の任期は二年。鎌田さんから受け継いだ代表は、当面2025年月まで。再出発(Re-Start)、新出発(New-Start)する、という思いです。これまで歩んできた道、築いてきた方向をさらに発展させていきます。皆さん、引き続きのご支援、どうぞよろしくお願いします。

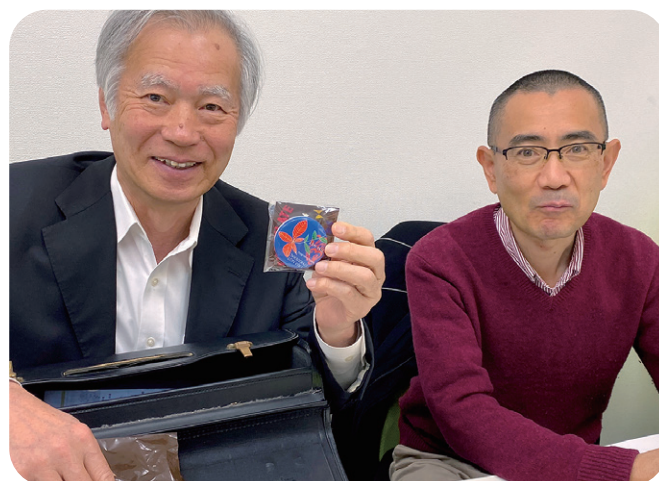


池住義憲◎プロフィール

1944年6月東京世田谷生まれ。大卒後、東京キリスト教青年会(YMCA)、アジア保健研修所(AHI)、国際民衆保健協議会(IPHC)などNGO経験に従事。自衛隊イラク派兵訴訟の会代表を務め、2009年10月よりJIM-NET理事を務め、2019年7月より副代表理事。愛知県日進市在住。

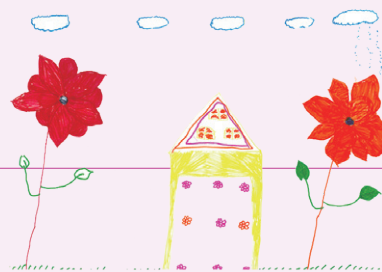


「JUSTPEACE!!」絵画展にて



今井監事と

サヘル・ローズさんの イラク訪問報告会



募金担当・大嶋愛

6月17日、都内でサヘル・ローズさんのイラク訪問報告会を開催し、約60名の方々がご参加くださいました。

俳優のサヘル・ローズさんは、4年前のイラク訪問後から、ずっとJIM-NETの活動を応援し続けてくださっています。「また絶対イラクに行くから!」という子どもたちとの約束を、この度果たされました。

サヘルさんはイラン・イラク戦争の最中に生まれ、実の親を亡くされました。サヘルさんを引き取られた養母からは「いつか、あなたはちゃんとイラクを見て、戦争に勝ち負けはないということを学び、イラクを知って、隣国のイラクを愛しなさい」と教えられたそうです。生みの親を奪った国に行くことは、とても勇気がいりますが、養母が癌になったことをきっかけにイラク訪問を決意されました。

そして今回の再会の旅では、JIM-NETハウスやシリア人難民キャンプ、ヤジディ教の女性と子どもたちの支援施設、亡くなられたイラン人患者のご家族を再訪されました。報告会の中で、今回の旅でのとても素敵な再会のエピソードと、新しい出会いの数々をお話してくださいました。

(その新しい出会いの中に、Coffee for Peace!の「眠り猫」を描いた、シリア難民で血液の病気治療中のシャームちゃんという15歳の少女がいます。5ページ下に、その時の対談を載せておりますので、ぜひお読みください。)

報告会では、アルビル事務所とオンラインでつなぎ、サヘルさんと同胞のイラン人のアレズさんに登場いただきました。前回のイラク訪問時に、JIM-NETハウスでアレズさんご家族と出会ったサヘルさんは、妹のようにアレズさんを大切にして、サポートされています。アレズさんは、政治的な理由で故郷に帰れずイラクで白血病の治療をすることに



トーク中のサヘルさん

なった兄のシャハワンさんを看病するため、イラクに渡って来ましたが、お兄さんは急逝してしまい、ご家族は難民としてイラクに残ったままです。

サヘルさんは、シャハワンさんをはじめとする難民の患者たちを支援するために行なったクラウドファンディングで、とても熱心に応援してくださいました。

たまたま報告会の朝に、その日がアレズさんの誕生日と分かり、参加者の皆さんとサプライズでお祝いをすることができました。サヘルさんが訳してくださったアレズさんのメッセージを紹介いたします。



オンラインで参加中のアレズさん

私はイランを離れてから誕生日を祝うことができず、ケーキやろうそくの灯を見て、「あなたの願いは?」と言ってもらったのが、5年ぶりです。



ウクライナもロシアも、忘れ去られてしまっている
終わりなき戦争すべてが本当に終わって、人が人として
生活できて、手を取り合って、今の私たちみたいに
繋がり合って、同じ時代を生きている人、全員がその
権利を持てることを私は願っています。

この私の5年間の溜まった願いを、世界の本当の平和
と一緒に願ってもらえませんか？

「アレズの言葉に全てが込められていると思います。

何一つ解決せず終わっていないのに、一瞬だけ報道さ
れ、忘れ去られていくことで、戦争は次の火種を生ん
でしまっている現状を忘れないで。こうやって繋がり
合っていけること、この奇跡は本当に貴重なんです。」
と、最後にサヘルさんが締めくくりました。

サヘルさんの優しく温かな語りの中
に、胸が熱くなる瞬間が何度もあり、
たくさんの気づきを得て、心揺さぶら
れる時間となりました。



サヘルさんは今回の訪問で、JIM-NET が支援するシャームちゃん実際に
会い、シャームちゃんに質問をしながら、シャームちゃんとの交流を深めまし
た。サヘルさんとの会話の一部を、ぜひ皆さんにもご紹介します。



サヘル：シャームちゃん、今は何歳？どうしてアルビルに来
たの？

シャーム：15 歳です。シリアの状況がとても悪く、状況が
良くなるまで滞在しようとしてここにきました。

サヘル：シリアで起こったことは、今もまだ覚えてる？

シャーム：絶対に忘れません。私も兄弟もまだ小さかった
けど、忘れることはないです。

サヘル：世の中は今、戦争で溢れているけど、どうしたら
人間は戦争を止められると思う？

シャーム：対立している人々はみんな、仲直りすべきだと思
います。そうすればうまくいくと思うの。平和の中で生
きるためには、人々はお互いを愛さなければなりません。
「誰々がこう言った」ということを話さない。「こっちはこ
う言いました、あちらはこう言いました」ということは言わ
ずに、私たちは同じ人間として、お互いを愛さなければな
りません。

サヘル：シャームちゃんの夢はなんですか？

シャーム：まずは学校に行って、周りの女の子たちと同じよ
うに勉強がしたいです。色々な文化や世界のことを知りたい
です。英語を話せるようになりたいし、コンピューターのプ
ログラマーかコンピューターエンジニアになりたいです。

サヘル：あなたは周りのみんなにポジティブなエネルギー
を与えているよね。そのエネルギーはどこからきてるの？

シャーム：ありがとう。私は自分が落ち込んでいても、い
つも周りには積極的に希望を与えるようにしているの。

サヘルさんとシャームちゃんは、今回お互いの国の
歌や詩を送り合いました。

サヘルさんは「上を向いて歩こう」を歌い、シャ
ームちゃんはニザール・カッバーニというシリアの詩
人が書いた詩を送りました。シリアの首都ダマス
カスを象徴するジャスミンの花と町の風景を詠ん
だ有名な詩です。

サヘル：なんて素晴らしい祖国に対する愛なんだろう…。
こんな愛情をみんな自分の祖国に持っているだろうか。私
たちは、祖国に帰れない人たちが世界に沢山いることを忘
れてはいけないね。

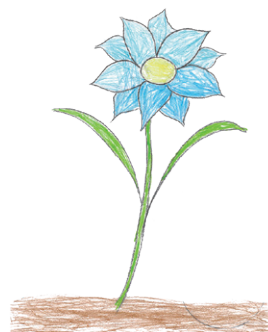
シャーム：確かに今は戦争などがシリアにはあるから、私
たちは戻りたくないの。でも、私たちはシリアが大好きです。
たとえ世界中どの場所にも移動しても、シリアは私たちの国
であり続けるんです。



サヘルさんとお絵描き



シャームちゃん



今年6月上旬に海外事業担当の斉藤亮平と長谷部貴俊が、バグダードの支援先の病院ならび関係者を訪問しましたので、その様子をお伝えします。今回の訪問では、アドバイザーとしてイラク人で、JIM-NETと姉妹団体のJCF（日本チェルノブイリ連帯基金）のリカア医師に同行いただきました。

～バグダードの様子～

昨年の夏、サドル潮流とイラク国内の親イラン派の全面衝突が、バグダードでありました。当時のライブ・ニュースでは、民兵が次々とロケット弾を発射する様子が映っていました。その時期と比較すると、バグダードの街は非常に落ち着いていて、イラク戦争後の復興も感じられました。しかし、地元の人は、「イラク戦争の前は、トゥクトゥク（三輪自動車のタクシー）なんて、バグダードの街に走っていなかったね」と残念そうに話してくれたのが印象的でした。それは社会の厳しい現状を表す一つの象徴なのかもしれません。

～バグダード小児福祉教育病院訪問～

JIM-NET 設立以来、関わりの深いマーゼン医師が働くバ

グダード小児福祉病院を訪問しました。JIM-NET が、長年医薬品支援を行っている病院のひとつです。イラクで小児がん治療の第一人者であるマーゼン医師のもとでは、医師や看護師がひとつのチームとして、24 時間体制で入院中の子どもたち患者のケアにあたっています。病院の設備や建物は古く、新しいセンターを増築中ですが、予算の関係で計画通りに進まないことも予想されています。病棟も見学させていただき、リカア医師は治療計画を見ながら、子どもたちに優しく話しかけ、励ましていました。マーゼン医師は、JIM-NET 会議（イラク全国から小児がん治療の医師が集まり、治療実績などを発表し合う会議）を当初から牽引してくださっており、コロナ禍以降 4 年振りの開催となる今年の会議に向けての話し合いも行ないました。

～中央小児教育病院訪問～

院内学級、貧困患者支援を実施している中央小児教育病院を訪問しました。入院病棟と外来病棟のどちらも建物の老朽化が進み、建物は患者数の増加に対応すべく増改築が行われていました。床、壁は剥がれている部分があり、机や椅



バグダード小児福祉病院



JIM-NET スタッフのラナは子どもたちから信頼も厚い



リカア先生の励ましに、子どもたちも笑顔に



マーゼン医師と病院スタッフ



外来診察の設備や備品の老朽化が進んでいる



入院患者が使える洗濯機はトイレに1つだけ

絵本『Monchan Goes to Savanna (モンちゃんサバンナへ行く)』と子どもたち

子、ベッドなどの備品も壊れそうな状態でした。治療や処置を行う際に使用する使い捨てベッドシートも病院で購入することが出来ず、JIM-NETで支援しています。この病院では、2人のJIM-NETスタッフが入院している子どもたちやその家族に対して、心理ケアのサポートや貧困患者支援を行っています。JIM-NETスタッフのアブサイドとラナは、病院スタッフとよい関係を作り、入院している子どもたちの治療状況をノートに詳細に記録しています。2人ともそれらの情報をすべて頭に入れており、私たちが訪問した際も、一人一人の詳細な現状を語ってくれました。



イラクで長く人道支援活動을続ける高遠菜穂子さんが代表を務めるPCP(ピースセルプロジェクト)が制作された多言語絵本『モンちゃんサバンナへ行く』のブックドネーションに協力し、2カ所の病院の子どもたちに直接届けてきました! 治療中の子どもたちの中には、笑うことができる子どももいれば、抗がん剤治療による倦怠感や吐き気のため、ぐったりしている子どもたちもいます。絵本を渡す際は、患者さんの状態を第一に考え、そっと手渡したり、親御さんに渡したり、一緒に絵を見て楽しんだりしました。『モンちゃんサバンナへ行く』にはたくさんの動物が出てきます。子どもたちは、見たことのない動物を見て目を輝かせたり、スタッフと一緒に色々な動物になりきっておしゃべりしたりしていました。



JIM-NETスタッフのアブサイドが入院患者に読み聞かせ

PCP (ピースセルプロジェクト)
HP : <https://www.peacecellproject.org/>



クラクションと砂埃の中を通り抜ける街に巡らされた通りは、朝から晩まで交通渋滞が続いてました。アルビルやバスラをも凌ぐ交通量の多さに、ここがイラクの首都であることを実感しました。戦争とその後の情勢不安が長く続きましたが、ここ最近治安も回復していると人々は口を揃えて言います。作家や音楽家などバグダードの文化人たちが集うムタナッビー通りやその周辺の旧市街には多くの人で溢れ

バグダードの街中紹介

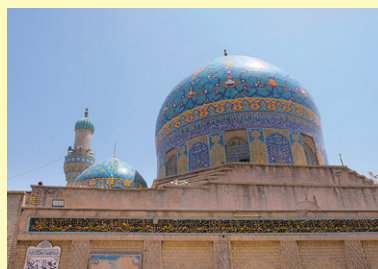
かえていました。ムタナッビーはイラク出身の詩人で、アラブ諸国では知らない人はいないというほどの有名な詩人です。文章の美しさ、風刺の効いた詩は今日でも多くの場面で引用されています。

ムタナッビー通りには、古書店が立ち並び、分野ごとの専門書店があります。以前は多くの出版社がこの通り付近に建っていたといひます。



バグダード最古のカフェ・Shabandar Café。イラク戦争後に爆弾テロで破壊されたが、カフェは再建され、現在も人々が集い政治や芸術、文学などが議論される文化的な拠点となっている。

ムタナッビー通りにある古書店。専門書や一般書、教科書などが並びます。



バグダードの象徴とも言えるハイデルハーン・モスク



ムタナッビー通りの先にはチグリス川が広がる。橋が無かった時代は渡し舟で向こう岸に渡っていたとか。



英国スタイルの2階建てバス。イラク戦争により運行が中止されたが、2012年ごろより復活し、旧市街を中心に現在も街中を走っている。



COFFEE for PEACE!

おかげさまで第3弾!!!

ドリップコーヒー×イラク・シリアの子どもたち ＝子どもたちの命をつなぐ

小児がんの治療中の子どもたちは気持ちもふさがちですが、お絵描きでは画用紙一杯に楽しい世界が広がります。

JIM-NETが大切にしている子どもたちの作品をドリップコーヒーのパッケージに載せてお届けできるようになり、「可愛い!」「プレゼント

したら喜ばれました😊」「絵の部分フレームに入れました!」等々、嬉しいコメントに励まされております。絵を通して、イラクとシリアの子どもたちのことを少しでも知って頂ければ幸いです。

お知り合いへのちょっとしたギフトとしても、ぜひお役立てください☆



ドリップコーヒー
2袋入り
550円



お知らせ



JIM-NETハウスが建設されて4年目となりました。おかげさまで多くの治療中の子どもたちとその家族の皆さんを支えています。当初の予定に合わせ、現在、病院への移管の準備が進められています。イラクの保健行政は依然として不安定であり、がん患者を受け入れる病院不足も深刻な状況にあります。移管に当たっては改めて病院側と社会心理的支援の重要性を確認しつつ、協議しています。



JIM-NET
الشبكة الطبية اليابانية العراقية

特定非営利活動法人 JIM-NET (ジムネット)

郵便振替口座 00540-2-94945 加入者名 日本イラク医療ネット

Facebook、Twitter、Instagramもぜひご覧ください。『JIM-NETで検索』

募金・サポーター会費はこちらへ→

